

令和４年度第１回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和４年５月１３日（金） 午後１時３０分から午後３時まで

II 場 所

徳島県庁１０階 大会議室

III 出席者

【委 員】２０名中１４名出席

高原清秀会長、佐藤充宏副会長、伊藤典文委員、大阪真智子委員（リモート）、
岡部裕子委員（リモート）、幸田貴美子委員（リモート）、小谷敏弘委員、
中井優子委員、吉野誠委員、永原レキ委員（リモート）、西村洋子委員、
村上亜弥子委員（リモート）、山口鉄生委員（リモート）、
米本元子委員（リモート）

【事務局】知事、未来創生文化部長、スポーツ振興課長、体育健康安全課長、
ダイバーシティ推進課副課長ほか

IV 内 容

開会

議事

（１）徳島県スポーツ推進計画策定方針について

（２）令和４年度徳島県地域運動部活動推進事業について

閉会

《配付資料》

- | | |
|--|-------|
| ○ 徳島県スポーツ推進計画策定方針 | 資料１－１ |
| ○ 第３期徳島県スポーツ推進計画（事務局案） | 資料１－２ |
| ○ スポーツ基本計画に基づくスポーツの推進に当たり
取り組んでいただきたい点について【スポーツ庁】 | 資料２ |
| ○ 令和４年度 徳島県地域運動部活動推進事業 | 資料３ |
| ○ 徳島県スポーツ推進計画策定スケジュール | 参考１ |
| ○ 第２期徳島県スポーツ推進計画 | 参考２ |

V 議事録

開会

☆会長

それでは議事に移りたいと思います。委員各位にはご協力のほどよろしくお願いいたします。まず事務局より、「議事1徳島県スポーツ推進計画策定方針」について説明をお願いいたします。

◆事務局

資料1-1、1-2、2に基づき説明

☆会長

ただいま事務局より説明がありました。このことにつきまして、ご質問、ご意見をお受けしたいと思います。この機会ですので積極的なご発言をお願いいたします。どなたからでも結構です。

○委員

策定のまずスケジュールについて、いつまでにどのくらい策定するのか今一度考え方なり、スケジュール感をお示しいただいて、今日の位置づけがどのあたりになるのかなといったところについて説明いただければありがたいと思いました。

中身につきましては、今の時点で申し上げますと、基本的な項目については今の体系を引き継ぎながら、かつ新しい要素を盛り込んでいくということでもいいのかなと思います。私が関わっている障がい者のスポーツも含めてですね、高齢の方も最近、障がい者交流プラザでは卓球を楽しむ様子を見ております。非常に楽しい様子をよく見ます。ですからコロナの中にあってもですね、マスクしながら一生懸命卓球に汗を流す、そしてそこで仲間ができている様子をみますと子供の世界、それと一生涯を通じて自分の好きなスポーツができる環境という、そういったことが非常に大切だと考えます。今徳島マラソンが県下のランナーを育てていく大きな土壌となったように、一生涯を通じてスポーツを楽しむような環境というものがあるといいですね。それと徳島ならではのスポーツの部分ですね。ラフティングも含めていろんな各所で楽しむ機会がありますので、徳島ならではのスポーツを小さいときから楽しめるような環境という視点がどこかあったらいいのではないかなというふうな気がいたしております。最初のスケジュール感について、簡単に概略を教えてください。

☆会長

スケジュールについて、事務局お願いします。

◆事務局

参考 1 に基づき説明

☆会長

スケジュールを見ましたら、本日の会議はそれぞれの委員の方からご意見を自由にいただいて、それを作業部会の方でかみ砕いて作業していただけると、そのような日程だと理解しました。そういう意味でもできるだけ多くの材料があったらいいように考えますので、どうぞご自由な発言をお願いします。

○委員

それぞれ新しい部分も入れられて対応といいますか、国の方針との対応も十分担えているかなと思います。一点気になっているところがありまして、これを4つに分けてしまうとあれなんです、どの事業にも非常に重要だと思うんですけども、今コロナ禍の中でスポーツをやる意義、こういったところをやはり具体的な形で進めていかなければいけなくて、事業の継続といいますかコロナのような緊急事態が起きても、そういったスポーツをどうやったら継続できるのかというところが、今回のコロナ禍でスポーツをやられる上でいろんなノウハウが出てきてると思いますけれども、そういった安全管理体制とか、そういった事業を継続できるようになってる点に対する計画的なものも、これはどこかに入れるべきなのか、それとも事業として、ウィズコロナといいますか、先ほどお話があったようにスポーツやっていく上でどんな安全管理体制でやっていくのかということですね、その辺りを少し整理して計画に盛り込んだらいいんじゃないかなというふうに思っております。

特に今回、インターハイ等かなりいろんな大きなイベントの中で具体的な運営の仕方とか管理の仕方、私どもは徳島大学ですけれども、今年インカレをやれという話になりまして、同じようにどうやったらいいんだろうかと言っておりまして、いろんなイベントをこれから継続的にやっていく上で、やはりこう注意点といいますか、そういったものもぜひこの計画の中にどこかで結構ですので、一行でも結構ですので入れていただけたらと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ただいま、委員から貴重なご提言をいただきました。コロナ禍でもスポーツを続けていけるそういう環境を維持するために、何らか必要じゃないかという。ありがとうございます。現在においても感染対策をした上で、いろんなスポーツを実施して、一斉に中止というのではなくコロナと共存しながらスポーツをやっていく雰囲気というのはできつつあるのかなと考えています。これまで以上にまた、アフターコロナも見据えた形でこういった形で、コロナ禍においてもスポーツを継続していくというのは、大事な視点だと思いますので、何らかの形でこの計画の中には盛り込んでいきたいと考えております。

併せまして、先ほど、一生涯を通じてスポーツを楽しめる、誰もが楽しめる環境づくりでありますとか、徳島ならではのスポーツについて、小さい時からのそういう親しめる環境づくりというようなご提言をいただいておりますので、この辺りも計画の中で盛り込んでいけたらなというふうに考えております。ありがとうございました。

☆会長

よろしくお願いします。最近届いたJ-SPO日本スポーツ協会からの雑誌を読んでいますと、コロナ禍になってから個人単位のスポーツ活動は以前よりも盛んになったのではないかと。それから2人以上の卓球・テニスから球技にかけては少し仲間を得にくい状況ではないかと、そういうことが書かれておりました。ということで以前とは少し、スポーツする方の環境が変わりつつある。そういうような理解ができるのではないかと思います。その辺り、先ほどの生涯を通したスポーツ活動の推進のところで、書き込みができたらなと、そんなことは考えております。

他の委員の方どうでしょうか。リモートの委員の方もよろしくお願いします。

○委員

ただいま新しい県のスポーツの策定についていろいろ意見を聞いたり、書類を見せていただきました。私は、ラフティングやウェイクボードに関係しておりますので、どちらかというとスポーツツーリズムを推進して観光振興、または地域の振興を目指しているというところでございます。

三好の方の、県の方からも補助をいただいているんですが、WMGの2025年度の大会を継続していこうということで、先ほど委員がおっしゃられたように、ウィズコロナ・アフターコロナなどのコロナ対策、選手の安全というところで県にお願いしたところ、いろいろとそういうことに関係する補助金を出していただいたり、

物品を出していただいたりと、十分なことをしていただいているなと思います。

だいぶコロナもどうすれば危なくないっていうのがなんとなく分かってきたようなので、郊外でできるイベントについては三好の方の一般社団法人「地球のテーマパーク」というところがありますが、そこで7月ぐらいからウェイクボードのイベント、町民のイベント等を入れていこうと思っております。それから10月にはラフティングの大歩危リバーフェスティバル、WMGに繋がるものなんですけど、それもゆっくりやっていこうという計画を立てております。アフターコロナを見据えまして、少しずつ前向きにやっていったらいいんじゃないかなっていうふうに思っております。

また、このスポーツ庁の方からの取り組んでいただきたい点についてというものの3つ目、スポーツの国際交流というところなんですけれども、この5月にはラフティング女子チーム、男子チームなどボスニアの方へ世界大会に参ります。コロナでどうなるかなと思ったんですけど、開催するということなので十分気をつけながら、もうすぐ旅立ちます。

国際交流、協力を進めることというところがあるんですけども、徳島県の選手が世界の大会に参加した時に必ず協会などの主催で、現地の子供達と仲良く日本語の紹介と、日本の紹介、日本からは結構折り紙を持って行ったり、そういうことをして触れ合ってくるんです。一度県の方にもお願いした時があるんですが、リバーフェイスのユニフォームを着ていくんですけど、その日本の中の徳島の代表ですよっていうのは、全然わからないんです。それで、軽いバナーで良いのですだちくんのバナーか、ジャパンと徳島っていうのが入ってるようなそういうものを作っていたらその交流する時ですね、そういう時にも張ったりして、私たちはここから来ましたっていうのがあるんじゃないかな。そういう可愛いものを多分すだちくんのうちわとか、ああいうものでも海外の方には大変喜ばれると思うので、そういうものを準備して頂けたら、多量のものは持って行けないと思うんですけど、そういうことでも国際交流の1つになるかなと常々思っていたので、こちらのスポーツ庁からの施策の中にも取り組んでと入ってますので、ぜひとも県の方でも取り組んでいただきたいなあとと思います。

それと、これは経費のかかることですのでどうかなと思うところあるんですけど、徳島を代表して世界大会などに行くアスリートの方には、航空券などいろんなことにお金をがかかりますので、少しでもそういう大会に行くアスリートに対して補助金というような制度があれば嬉しいなと思います。そういったことも盛り込んでいただきたいと思います。以上でございます。

☆会長

ありがとうございました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

まず三好の方でラフティングが盛んに行われておりまして、リバーフェイスさんがボスニアでの世界選手権に出場されるということで、先日、副知事の方にも表敬いただきまして頼もしい姿を見せていただいたところです。コロナ禍においても競技を続けながら頑張っていたでいて、それで世界選手権出場枠勝ち取られました。

現地に行っても日本の紹介や徳島の紹介をしていただけるということで、徳島と言えばすだちくん言われておりますので、何らかですね、バナーなど例えばユニフォーム貼り付けて、徳島と言えばすだちくんだよとか、徳島をPRしていただけるような何かですね、関係部局と相談しながら、実際に世界の方へ行ってPRしていただけるのが、チームで活躍している選手の方々、関係者の皆様なのでその辺り県で何とかサポートできる部分はやっていきたいなというふうに考えております。

また、世界大会出場のアスリートへの支援ですが、徳島県においても競技力向上というところからいろんな競技団体の、有力な選手が国体での順位向上を目指して頑張っていくというところで、いろんな支援をさせて頂いて、強化の遠征費であるとか合宿、それから逆に、海外から選手を受け入れて行う大会の支援などですね、そういう経費も支援しておりますので、有望な選手方は特にそういう制度もありますので、競技団体を通じてまた支援の方を継続してやっていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

○委員

特に施策ということではないんですが、言葉の質問をさせていただきたいと思います。「資料1-2」の「スポーツで人とまちをつなぐふれあいとくしま」の緑色に赤字で書かれている言葉の意味が分からないんですが、アウター施策とインナー施策っていう書き方は耳慣れないので私勝手にイメージはしてみたんですけども、どういう意味というか具体的にどういう事が教えていただきたいんですが。

◆事務局（スポーツ振興課長）

少し耳慣れない言葉を使っているかもしれませんが、スポーツツーリズムやイベント等のアウター施策と地域住民のためのインナー施策ということですけど、まずイベント等のアウター施策というのはイベント等対外的な施策によって、外から

の例えば県外から徳島へ人に来てもらって、そこで地元の方々と交流をしてもらおうという対外的なイベント、施策をアウター施策と言っております。

それと、地域住民のためのインナー施策とは、地域での交流の場を提供したり地域の方々への施策ということで、それを両方一体で進めていって、全体的な地域の活性化、地方創生を図っていければということで、スポーツで人とまちを繋ぐという「ふれあい徳島」を表現したいなと考えております。ただ、その辺りイメージがしにくい言葉なのかなと思いますので、これが良いよといったものがあればご提言いただければと思います。以上です。

○委員

拡大する施策と書かれておりまして、そういう拡大していく施策が増えていくことはおおいに良いことだと思うんですけど、逆に縮小とか今までやってきたけどやめていったものへの施策の反省であったり、検証みたいなのを踏まえた上で、拡大する施策を増やしていければいいのだと思います。

それと今回の会には関係ないかも分かりませんが、細かな事業についてはそれぞれお考えをいただくんだと思うんですが、以前お話したトップアスリートの方、例えば、我々の会社でよく使われている食育といった言葉がありまして、要するに運動するにしてもやり方とか、逆に運動するのをサポートする側のサポートの仕方とかはきちんとしたエビデンスとしてあるんですが、トップアスリートの方っていうのは基本的にはそういうのを踏まえた上でやられているのです。

特にこれからの次世代を担っていく子供達というのが意外とそういうところの知識であったり、逆にその周りの方ですね、そういう知識のない方が、ヤレヤレいう風におしりを叩いてたくさんの機会を創出するにしてもですね、やっぱりやり方であったりアプローチの仕方がしっかりしてないと競技自体の技術的な向上というのはあまり期待できない。そこでそのスポーツ的なところもありますけど、医科学的な見地からのアプローチであったり、特に弊社の宣伝するわけではないんですけど、そういうエビデンスに基づいた食育であったり。そういう機会をいただけるのであれば、説明をさせていただきますし、何か役に立てることがありましたら、御協力などしたいと思っております。そういうところの施策というかステップを踏めるようなものも策定の中に入れられたら、より中身の濃いものになるのではないかと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

委員から貴重なご提言をいただきました。

まず、現在の計画の縮小する部分であるとか反省点・検証を踏まえた上で第3期計画をというところをいただきました。それで現在の第2期計画におきましても、この参考資料の徳島県スポーツ推進計画の冊子の裏面を見てくださいと、計画の中の施策目標の一覧があります。数値目標という形で上げておりまして、これの進捗度合いが一番わかりやすいのかなと思います。次回の審議会をめぐり、年度途中ではありますがその時点での進捗度合いをお示しして、検証という形で第3期計画へのステップとしていけたらなというふうに考えております。

それからもう一点、食育についても、大きな視点でトップアスリートであるとか次世代を担う子供たちの運動をサポートする良いツールだよと、そういうご意見をいただきました。徳島県においては、現在の競技力の向上というところで、スポーツ医であったり、いろんな大学企業と連携を強化したり、そういう医科学的な見地から幅広く支援をしていこうという取組も始まっております。その中で食育というところも大事な視点になっておりますので、計画の中に盛り込むのも含めて、その競技力向上にあたってまた連携をとってご協力いただけたところをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

☆会長

他にご意見いただけることはございませんでしょうか。

○委員

障がいを持った方のスポーツに関して私自身、県内の状況が分からないことも含めて、提案というよりはお聞きしたいことがあります。

民間スポーツクラブの指導者の方から、障がいを持った初心者の方が入会体験をしたいという、そのうえで指導者自身があまりそういう方を受け入れた経験がないために、どのようなことに注意をすべきか知りたいというような問い合わせがありました。

テニスに関してでしたので、私がわかる範囲でお答えしたんですけども、民間のスポーツクラブの指導者の方が、障がいを持った方を受け入れる時に問い合わせをするような窓口があるのかなということが1つ気になったのと、その方が競技用車椅子を利用しないとプレーができないようなレベルの障がいの方だったんですけども、交流プラザに行けば車椅子などをお借りできるような仕組みがあると思うんですが、個人的に民間クラブでスポーツをしたいという方に対して半年とか1年とか車椅子をレンタルするような仕組みとか、あと自分の体にフィットしたような車椅子でなければプレーできないような方に対して車椅子の購入をする資金等の

援助をする仕組みはあるのでしょうか。

1点補足なんですけど、この車椅子を購入する資金に関しては役場とかに行けば申請することができるんですけど、日常用の車椅子と競技用の車椅子両方支援するっていう仕組みは無いとお聞きしていて、どちらかを取るしかないっていうふうに聞いています。自分に合った車椅子でなければプレーできないようなぐらい障がいの重い方だと日常の車椅子も勿論必要だし、競技用についても車椅子が専用として必要という形の方が多いと思いますので、どちらかしか選べないというのはなかなかこう難しいなあというふうに感じました。

◆事務局（ダイバーシティ推進課副課長）

ダイバーシティ推進課でございます。障がい者スポーツに関する用具等の貸出についてのご質問でございますが、委員がおっしゃられたように、障がい者交流プラザでございます障がい者スポーツ協会において、車椅子テニス用の車椅子などの貸出を行っております。

また、障がい者スポーツに取り組まれている競技団体やクラブに対し、スポーツ用具の購入に要する経費を助成する事業を、こちらも障がい者スポーツ協会にお願いして実施しており、昨年度は計8団体に200万円程度の助成を行ったところで、おっしゃられた個人への助成については、現段階で制度はございません。

○委員

ありがとうございます。なかなか障がいの重い方が家族とか友人とか、そういう身近なところでスポーツを楽しむ上で、自分に合った道具を使えないっていうのが結構大きな問題なのかなと思って、少しでも支援していただければ嬉しいかなと思います。

☆会長

ありがとうございました。それでは、出来る限り対応出来ますようお願いいたします。

○委員

障がい者スポーツ協会、プラザの方でも事務室を置いていろいろサポートをしているところです。ダイバーシティの方からも話があったように、一定のところはアクセスできる場所はあるのですが、個人の方が長くする場合に、さあどこまでサポートが出来るかなというのは、これからも確かに課題ではないかと考えておりま

す。スポーツ業界、私の方でも民間から寄付を頂いて、できるだけ多様な道具を揃えていこうとしているところであります。

その中で個人の方に貸出しできるような機会があれば、そこは積極的に対応していきたいなと思いますし、新しい道具についてもこういった道具があるんですよというところで、多様な道具と個人へのきめ細かな対応を両方どこまで今後していくかについてはこれらの課題として真剣に取り組んでいくことが大事なというふうには思っているところで、積極的に公的なところから助成金があればそれに越したことはないですが、協会として今できる範囲のところまずは丁寧に対応できればなと考えております。

☆会長

委員よろしいでしょうか。他は何かございますでしょうか。お願いします。

○委員

我々の業種（プロスポーツ）としては、見ていただくスポーツが主になるかと思うんですけど、特に質問とか意見とかっていうわけでは無く、我々その見て元気をもらって帰っていただくみたいなのところかなというふうに見えるかもしれないですけど、一方では今は美馬市さんの方と一緒に健康や、子供たちの運動経験というところの事業と一緒に進めていたりというような活動もしておりますので、これからも引き続き自治体の皆さんとか、県の皆さんとか徳島の企業の皆さんと一緒にスポーツやヴォルティスを通して、健康、スポーツ、遊び、栄養等いろんなところを考えていただけるきっかけを提供できればと思いますので、ぜひ一緒にさせていただけることがあればご協力させていただければなというふうに思っております。

これは個人、県民としての意見なんですけど、なかなか夜まで仕事をして帰るとなると、外も真っ暗でいざ走ろうかなとなっても怖かったりとかして、正直自分自身に運動機会があると言われると結構少ないかなっていうのがあったりします。最近24時間フィットネスが流行ってきてるのは、そういう事なのかなと。

いろんな働き方がある中で、なかなか日中とかどうしても6時、7時までの時間のジムって正直行けなくなっているの、私世代ぐらいの女性とかはなかなか本当にスポーツするとか運動する機会っていうのが少ないんじゃないかなっていうふうに私自身感じてます。なのでなかなかジムを増やしてくださいとか、そういうのは簡単にはいけないと思うんですけど、道路のライトをつけてもらうとか、そういうことでも地域住民の運動の機会を増やせるのかなと思いますので、ぜひ県民の意見としてお伝えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

◆事務局（スポーツ振興課長）

貴重なご意見ありがとうございます。ウォーキングでありますとか、ジョギングが県民の方々が最初にとっかかりやすいスポーツかなというところもあります。夜とか暗くて不安だという方もいらっしゃるのかなと思いますね。

道路照明灯等、所管がいろんな県市町村だったりするんですけど、そういうご意見があったというのは関係部局の方にはお伝えして優先順位等も等々あるのかもしれませんが、安全安心に県民の方がスポーツに取り組めるような環境づくりというのは非常に大事だと思いますので、貴重なご意見として承っております。ありがとうございました。

☆会長

各委員の方から貴重な意見をいただきました。事務局におかれましては、今後の計画の立案に反映できる部分がありましたら検討をよろしくお願いいたします。是非積極的に考えていただけたらありがたいと思います。後ほどまた全般でご意見いただくことができますので、議事について進行をさせていただきます。

続きまして「議事２ 令和４年度徳島県地域運動部活動推進事業」について事務局より説明をお願いします。

◆事務局（体育健康安全課長）

「資料３」をご覧ください。令和４年度徳島県地域運動部活動推進事業についてでございます。１つめくっていただきますと、スポーツ庁からの資料を添付しております。

まず事業の説明でございますが、地域運動部活動推進事業は「Ⅰ．休日の部活動の段階的な地域移行」ということで、令和５年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて様々な課題に総合的に取り組むために、全国各地の拠点校、各地域において実践研究を実施し研究成果を普及することで、休日の地域における新たなスポーツ関係の構築に繋げるものでございます。この背景には令和２年９月１日付けで文部科学省の事務連絡「学校の働き方改革」を踏まえた部活動改革についてというのが示されております。ここで部活動は人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場であるが、一方でこれまで教師による献身的な勤務の下で成り立っていた。休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であることから、部活動を学校単位から地域単位の取り組みとし、持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が求められています。そこで、ス

スポーツ庁では、令和３年度から地域運動部活動推進事業を実施し、休日の地域部活動や合理的で効率的な部活動の全国展開を図るための実践研究を実施しているのをごさいます。

これを受けまして徳島県教育委員会といたしましても、中学校における休日部活動の令和５年度以降の段階的な地域移行に向けまして令和３年度、昨年度から国費事業を活用いたしまして、地域人材の確保や費用負担のあり方の整理、また運営団体の確保などの課題解決を検証するための実践研究に取り組んでいるところでございます。

資料を１つめくっていただきますと、今後のスケジュール等が青色のページに記載してございます。現在２０２２年、令和４年に関しましては地域部活動それから合同部活動を推進するための実践研究の実施の２年間のうちの２年目というふうなところの位置づけとなります。スポーツ庁におきましては、令和５年度から段階的に地域に移していこうというふうなスケジュールを持っております。

そこで本県の取組みでございますが３ページをご覧ください。令和４年度徳島県地域運動部活動推進事業と書いてございます。県立学校におきましては、現在３校、運営主体を徳島県教育委員会といたしまして、モデル校として城ノ内中等教育学校の前期課程。ここは陸上競技部。それから今年度からそれに加えてフェンシング部この２つの部。富岡東中学校は昨年度から今年度もバレーボール部、また県立川島高校は昨年度からの剣道部に今年度は卓球部を加えて実践研究を行っております。市町村立学校におきましては、小松島市におきまして２校。ここは運営主体を県教委から小松島市教育委員会に再委託をいたしまして運営をお願いしております。モデル校としましては小松島中学校で新体操部とソフトテニス部。また今年度から、新たに小松島南中学校を加えて実践研究をしていただく予定になっております。

続いて４ページをお願いします。本年度の目標でございしますが、顧問の時間外在校時間を２５％以上の削減。また地域移行に対する満足度を８０％以上。これは生徒及び保護者へのアンケート調査によって図りたいと考えております。また令和５年度以降に関しましては、段階的に地域移行が実施できる運動部を増やしていきたいと考えております。実践研究の（１）なんですけれども、現在の休日の指導形態なんです、城ノ内中等教育学校におきましては陸上競技部において、城ノ内中等教育学校の教員１名と公務員１名の２名体制で行っております。フェンシング部に関しましては、県立高校教員２名に加えて、フェンシング協会のメンバーであります公務員と社会人の方で今年度から開始する予定になっております。富岡東中学校女子バレーボール部は、富岡東中学校の教員１名が兼職兼業を経て実施しており

ます。県立川島中学校の剣道部それから卓球部においても、同中学校の教員が兼職兼業で実施をしておるというような状況になっております。

（２）の実施期間・回数・経費については、期間といたしましては令和４年５月から令和５年の２月までで、回数としては休日４０回程度と考えております。

（３）の検証指標なんですけれども、生徒や保護者向けのアンケートやモデル校の教員向けのアンケート、また時間外在校時間の調査、そしてそれぞれの学校の部活動の削減計画等を検証して行きたいと考えております。

５ページをご覧ください。具体的な取り組み内容は（４）でございすけれども、特にモデル校におきましては、黒の塗りつぶした●で書いてありますけれども、校内に検討委員会を設置していただくこと。また先ほども申し上げましたが、部活動数の適正化を図っていただきたい。それから保護者への説明をして理解を得ていただきたい。また参加する大会等の精選、これらをモデル校にお願いをしております。

（５）事務局なんですけれども、先ほど申し上げましたが県立学校におきましては、徳島県教育委員会体育健康安全課内に事務局を置いてあります。また下のひし形ですけれどもそれぞれのモデル校には事務局員をおいて、県教委や学校との連携のもと事務処理を行っております。

（６）なんです、検討・運営会議につきましては、検討委員会を県内の大学、スポーツ関係団体、それからモデル校の担当者、県教育委員会等のメンバーで組織をいたします。昨年度も２回運営会議を実施いたしましたけれども、今年度も１０月と２月に２回開催し、効果的な事業の推進と成果や課題の検証を行って参りたいと考えています。本年度につきましては、徳島県の地域運動部活動地域推進事業はこのような予定で考えております。

先日の新聞等のメディアでも発表がありましたけれども、スポーツ庁の運動部活動の地域移行に関する検討会議、第６回が４月２６日に開かれまして、この中の検討会議でのメンバーからのご意見がマスコミに公表されまして、それが新聞等で発表されたところでございます。その中身としましては、令和５年度から３年間程度準備期間として令和８年度から本格的に休日の運動部活動地域移行に進んで行くんだという風な新聞等での発表がございました。正式な発表はまだスポーツ庁からございせんが、おそらくまもなく、スポーツ庁からこれからのスケジュールに関しまして発表があると思いますので、それらも受けて徳島県といたしましてもより具体的に進めて行きたいと考えています。以上でございます。

☆会長

ただ今事務局より説明がありました。大きな変革になるわけでありましたが、徳島

県においてはもうすでにモデル事業を広く募って県内で開始していると、そのようなご説明がありました。このことにつきまして、ご質問ご意見をお受けしたいと思います。

○委員

実践研究を進めているところで例えば、富岡東中学校のバレー部ですと教員の方の兼職兼業というところが分かりにくかったので、もう少し教えていただければと思います。

◆事務局（体育健康安全課長）

はい。兼職兼業とはどういうことかというご質問だと思います。これは中学校の教員、普段平日の現在も部活動を指導していただいている先生が休日に関しては学校の教員という肩書きから外れて、地域の指導者という肩書きでそのスポーツ活動を指導するということであります。

○委員

ありがとうございます。少し細くなり恐縮なんですけど、休日はそのようにして、普通の日と休日の日で指導内容が異なるとか、指導の一貫性とかいったことについては今のところ特に課題としてあがってきてないのでしょうか。

◆事務局（体育健康安全課長）

はい。今の説明をした中にもほとんどのところで、地域の指導者がなかなか見つかっていないというのが現実なところでございます。そこで、普段から部活動を見ている先生方が、地域の指導者という肩書きに変えて土日もすべて見ていただいているところが多いので、現在のところは平日と部活動で一貫性が無いとか、そういう風な問題は起きてないんですけれども、これから先、土日に関しては地域の方に見ていただく、平日は学校の先生方が部活動として見る、これをどういう風に連続させていくのかというのは課題として必ず出てくると思います。

その中で、生徒たちの中には平日の部活動としては参加するけれども、土日は参加しないという選択をする子供たちも出てくるかなと思いますので、そのあたりにつきましてはいろいろな形で実施して行く中で、課題に対して、解決策等をしっかり考えていく必要があるのかなというふうに考えております。

○委員

この問題は非常に大きなことで、国が大きく変えようとしているのはいいんですが、現場では非常に混乱するだろうなと私は思っております。ただ前回もお話した通りですけれども、地方の特に中山間の子供たちにとっての環境は非常に今、子供減少とかチームが組めないような状態が中学校等でもありますので、それをどうするかってなってくると、学校一校だけの事務局というか、その体制ではなかなか。中核がそこだと僕も思うんですが、それを地域とどう結びつけるかを誰がやるんだみたいな話ですね。

それは徳島県スポーツ協会でも同じような話をしましたが、それって非常に重要で地域に応じた形のそういった環境づくりをなささいということを、県でこういう風にしましょうというよりはそれぞれの地域でいろんなパターンを考えて、その子供達にとって必要な環境づくりとしてどういう連携があるかっていうことをやっていかなきゃいけない。

私もスポーツ協会のいろんな委員をやってみて、そこでも当然いろんな形でこの問題は取り上げていますが、他県の事例でありますと、例えば教育委員会さんがやろうとすると、そういう生涯スポーツ担当の方だけで動かなくて、学校教育課の方とか要するにその市の教育委員会でも多様な担当者がいる中で協力しないとこの話も前に進まない。

そういった面では誰がそのいろんな団体、学校教育、地域のスポーツ振興、それぞれ組織が違って、それをどうくっつけていくのかっていうその辺りそれぞれの法整備といいますか、それが本当に大前提でないと動かないと思いますので、今やられている教員の方の兼務っていうのも国が出しておりますので、これは1つの法整備、モデルとして評価できますが、逆に今度地域の方々をどう学校の中にいれていくのかっていうね。それに見合った形の資格があるような人たちを、どういう風に育てるかっていう課題にも繋がってます。ある都道府県ではまずは外部指導者、今は非常勤では運動部指導員がありますが、そういったものをいかに市区町村の教育委員会で養成をした上で学校がニーズとしてあるような、あるいはどういう風な指導者だったら学校として受け入れられるかっていうような研修をしていただいた方を派遣するような形からスタートしたいということです。そういう面では多分いろんな進め方がある中で、今回はその学校中心にした改革のモデルなんですけど、あとひとつふたつ逆の立場で言うと、総合型とかあるいは少年団とかを事例にしたようなモデルも併せて進めていく必要があるのではないかと思います。

これはもう1つ障がいスポーツのところでも発言したんですが、特別支援学校の運動部も同じでありまして、ぜひそういった意味でも、そういう生徒の皆さんある

いは、今回中学校ターゲットですが、そういう人たちのスポーツ環境をやっぱりこう関わっているステークホルダーと言われているんですが、学校関係者、地域スポーツ関係者、各競技団体の方々がそういう子供たちの生活を基板にした上で、どういう協力ができるのかの話し合いの場面をそれぞれの地域で考えていかざるを得ないと私自身思っております。それをコーディネートできる人がいないと、たぶん非常に混乱を来すと思っております。

多分国の方針としてはそのあたりが出てくると僕もパブリックコメントで提案してるんですが、そういったものでいかなないとなかなかこれは進まないと思いますが、今回まず3年でやれって言う話は大体今後出てくる中で来年から3年間ですか、土日、要するにもう繋げればいいんじゃないかと、必要な物を繋げていくというか、それをどういうふうにするのかというプランを出していただいて、それぞれの団体の中で持ち寄ったもの。そうするとたぶんそれぞれの、例えば総合型クラブから、いろんな研修会とか全国研究会とかのミーティングがありますので、全国の情報が入ってきますし、少年団も同じように全国フォーラムとか指導者研修会とか、それぞれの地域でやっているモデルなんかの提案なんかが、そういう情報入ってくると思いますからそういった情報かみ合わせながらいかなないと、なかなかこれ難しいだろうなと思っております。

ぜひそういった面ではすみませんが日本スポーツ協会の方も、ジュニアスポーツに向けてという指針を出しておりまして、これに対応させた形で今動いておりますので、そういった面でも協会さんと教育委員会さんのあたりは、ぜひ情報交換していただいてしっかりと、来年度の計画を立てていただけたらと思います。以上です。

☆会長

ありがとうございました。

○委員

県ではこの休日の部活なりの学校の先生の働き方改革も含めて話が進んでいるのですが、実際に子供たちの数も少なくなる、その中で先生方に対する要請も大きくなってきて、重要なテーマであると思うのですが。スポーツを楽しむという時に、やっぱり安全に楽しむということで、指導者のところがしっかり統一された形で仕組みがある事が大事なことはないかなというふうな気がします。

障がい者に対する一定の理解と、障がい者スポーツについて指導ができる経験のある方を県の方で人材バンクということで設置をしていただいて私ども障がい者ス

ポーツ協会の方が運営をしています、そういった指導者を必要があれば派遣をしていくってことも引き続き大事なことです。結果としてこれが学校の方も、土日にまで踏み込めるかどうかといったところはまた1つのケースとしても、いろいろ検証していくことも大事じゃないかなというふうな気がしています。

それと私が小さい頃から関わってきたサッカーの世界でいえば、ドイツやフランスなどは人口が1億にもならなくて、ましてやベルギーはもっと少ない人口のところが世界ランキングでいくとすごいですよね。そのベルギーの選手の育成制度や強化策はどうしているのかと聞くと、やっぱりドイツはクラブ組織中心。ベルギーは確か教育の現場とうまくクラブ組織が連携を取りながらやっていたような話を聞いたこともありますので、ここは先生も大変でしょうから、皆さんの知恵の出どころではないかなという気がいたしております。

障がい者の人ももちろんですし、一生涯を通じて、スポーツを楽しむことができる。昔取った杵柄でもって、もう一度指導者としての知識ももう一つ資格制度など軽い制度を作って、学校現場に入っていくような資格制度も考えてもいいのかなと。あるいは誰かうまくコーディネートできる人がまずは必要かもしれませんが、こうしたモデル校、実践研究を通じて徳島ならではの回答策を引き出していくことが大事じゃないかなと思います。特に答えは必要ございません。

☆会長

ありがとうございました。それでは議事につきましてはこの辺りで質疑・ご意見を終わらせていただきます。先ほど申し上げました、その他スポーツ全般でせっかくの機会ですので何かご意見いただけるようなことがありましたら発言をお願いいたします。

○委員

教育とスポーツの話とても大切な議論で、素晴らしいと思いました。

僕の周りの海陽町の学校の先生たちの働き方見てて、若い人に限らずですけども、やっぱり先生に負担めっちゃかかってるっていうのも普段の自分の周りでもよく感じてまして。これ凄い難しい問題なんですけど、1件僕が最近海部高校、県南の海陽町の学校と連携しているLCA国際学校があるんですけども、これ神奈川県、日本で初めての株式会社制の学校です。ここの副校長さんが実はアーセナルっていうサッカーの世界的なスポーツチームの、世界の何か国かジュニアユースのクラブみたいな運営してるんですけども、そのアーセナルのジャパン代表されてた方が今LCA国際学校のコーチをやられて、その方が結構ここ2年間海陽町に通って下

さってて、地域教育、教育と大人の働き方とスポーツの中ですごい面白いなと思ったのが、多分これってスポーツの各業界に、公的な立場のかたが結構話し合わない、スポーツ業界も責任というか原因がすごいあると思うこと多くて、海外にその先ほどおっしゃられたベルギーとかの話もそうなんですけど、只々選手を育成するだけじゃなくてその特にサッカーとか野球とか、メジャーになると選手層が多いというか、人数が多くてでやっぱりその中で成功する人って本当一握りで大体そうじゃない方が大半なんです。

アーセナルの話で言うと、そのセカンドキャリアっていうのは最初からこうプロスポーツ選手になれない子たちも絶対出てくるし、そうなる可能性も、怪我であったり才能であったり色々あるんですけど、そういう人たちいろんなパターンを見据えた上で最初から教育してるっていうのがあります。スポーツやらせるだけやらせてあとダメだったから振り落とされて仕方ないじゃなくて、もうサッカーやってる子全員の未来をちゃんと把握、色々なシチュエーションに応じて誰がどうなるか分かんないから、その辺までちゃんと見据えた教育っていうのがコーチングというか選手育成をしてるらしいんです。

僕の言葉でうまく説明できないんですけど、そのLCA国際学校の今井先生って方のその経験とノウハウその考え方というのがすごい面白くて、皆さんもそのLCA国際学校とかそういった方が今徳島に出入りされてるんで、お見知りおきをいただけたらと思ひまして説明させていただきました。また来月も来ますし、話聞いて皆さんにお伝えできるように引き続き交流して行きたいと思います。

ついでにもう1つ、先ほどヴォルティスさんのお話も出たと思うんですけども、選手の衣服、オフィシャルウェアを一部手掛けられ始めた鳴門トランクスさんという鳴門市にある縫製会社の社長さんとお会いしてて、僕自身が去年オリンピックのサーフィンで日本選手団のオフィシャルウェアを藍染めにするっていうプロジェクトのプロデュースをさせていただいたんですけれど、スポーツ業界と藍でいうと農業とか伝統工芸の世界とある程度徳島だったりするんですけれども、日本らしさとかその地域性ですね、これはこう一次産業のスポーツ業界につなぐとか、その結構今の時代っていろんなこの垣根を越えて連携していくってすごい大切だと思うんですけれども、その中で唯一僕のテリトリーであるサーフィンという業界だけで、スポーツだけでしたけれどもオリンピックのそのオフィシャルウェアに自分のふるさとの藍染めであったり農家さんであったりを繋ぐ1つの取り組みに関わらせていただきました。

昨日その鳴門トランクスさんのヴォルティスの話を聞いて、藍とか農業とか伝統工芸だけではなくて、この地域の構成会社と地域のスポーツチームが連携して、お

互いに支え合うっていうかこれは凄いすばらしい取組っていうのは、僕自身もそういう気持ちでやったんですけども、もっとこういったことがこの地域間、業界業種間の連携っていうんですかね。こういう徳島って藍染めもそうですけど、インディゴソックスさんその名の通りで藍のプロダクトを取り入れたりされてますし。

こういったことがもっと浸透していくと、徳島のスポーツ業界でただただスポーツですごいやつが出てくるだけじゃなくて、ちゃんと地域とこう運動しながら、地域性をちゃんと取り入れながら活動しててかつ、その中から実績を残す選手が出てきてるっていうのは、ほかの地域の差別化になっていくんじゃないかなと思います。今日話を聞いて、少しお伝えしたかったことになります。以上です。

☆会長

貴重なご意見ありがとうございました。

○委員

サッカーのことをおっしゃってたんですが、昔テレビでバイエルンというチームご存知だと思うんですけど、そのチームの番組をやってました。要は何が言いたいかというと、トップチームの運営じゃなくてその下部組織がいかにやってるかということで、そのテレビの中でサッカーのグラウンドが11面あるんですね。そこが上から見えてくる11面あって、やっぱりドイツだけに土地もあるし、サッカー盛んやしトップチームがこのぐらいの11面も使うのかなと思っていた。しかし11面全部下部組織の子供たち用のグラウンドに当てている。その中で、要はサッカーやるだけではなくて成績ですね。学校の勉強が出来てなかったら参加できないんです。セカンドキャリアって話を言われてたと思うんですけど、やっぱりそういうちゃんと学業を積んでスポーツもちゃんとやる勉強もちゃんとやるっていう子供たちが初めてそのクラブチームの中で上に進んでいけるっていう。だから、スポーツと教育を両方やっていってるというのが、ベルギーやドイツもそうだと思います。そういうことがしっかりできている国であったり、チームであったりするのがやっぱり、世界のトップランクいけるのかなっていう。

まあ僕もそうだったんですけど、勉強はしてない。スポーツだけしかしてないみたいです。大学の時なんか授業ほとんど出ていなかったし、こういうふうな少し言い方悪いですけど、社会に出たときにスポーツで頑張ったっていうのも非常にいい財産になるんですけど、その上にやっぱりその学業っていうのがついて、それが一番理想的な形になるのかなとさっきおっしゃったアーセナルさんが徳島では日本でそういうレクチャーされながら、サッカーを通じてそういう人間形成であったりっ

ていう、そういうふうな普及されてることは非常に良いことだなと思いますし、ヴォルティスもいずれそういうふうになっていただけるとありがたいと思います。ありがとうございました。

☆会長

ありがとうございました。それでは時間も限られていますので、事務局のほうからご連絡いただけたらありがたく思います。

◆事務局

次回審議会のスケジュールについて説明

閉会